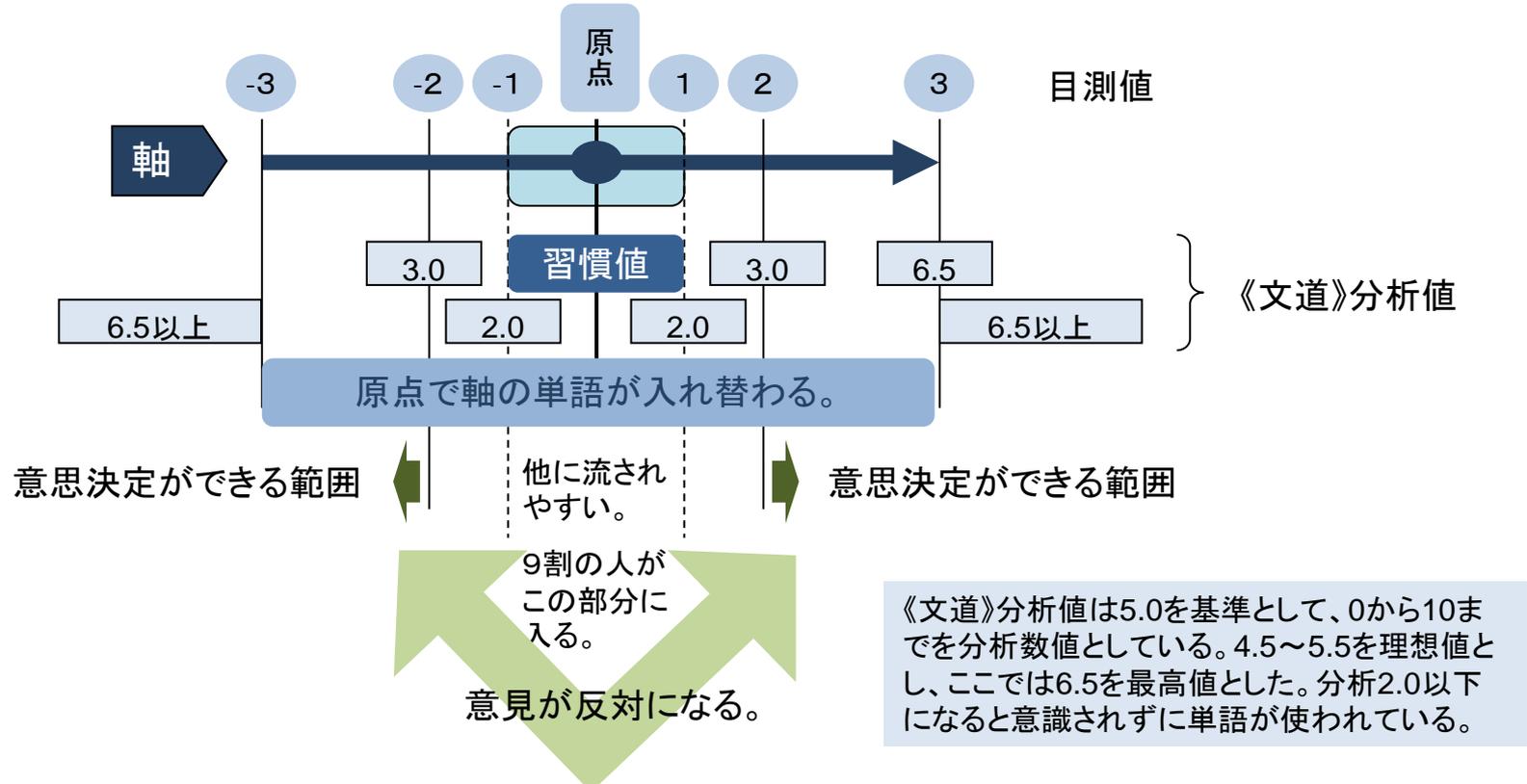


# 概念の位置を測定するための条件



抽象物構造軸を用いての検証は3種類が考えられる。第1は第1～第8象限に当てはめる。第2はレベルを決めて丁寧な検証をする場合である。行動観察と文章の読み込みがある。上図に表した軸の目測値になる。1軸で正の方向に2段階に分類される。1象限で4分割できるので、全体では64通りの区分が可能になる。原点に近い位置にあるものは習慣値で、目測値では分かりにくい。第3は《文道》分析値を使用した場合で、1軸の正の方向に4区分できる。1象限で64通りの区分になる。分析値を用いた場合、習慣値が抽出されるので、個々の思考・行動基盤が現われる。こだわりすぎになる部分が分析値6.5以上である。日常に概念検証をする場合は、8象限のみで十分である。